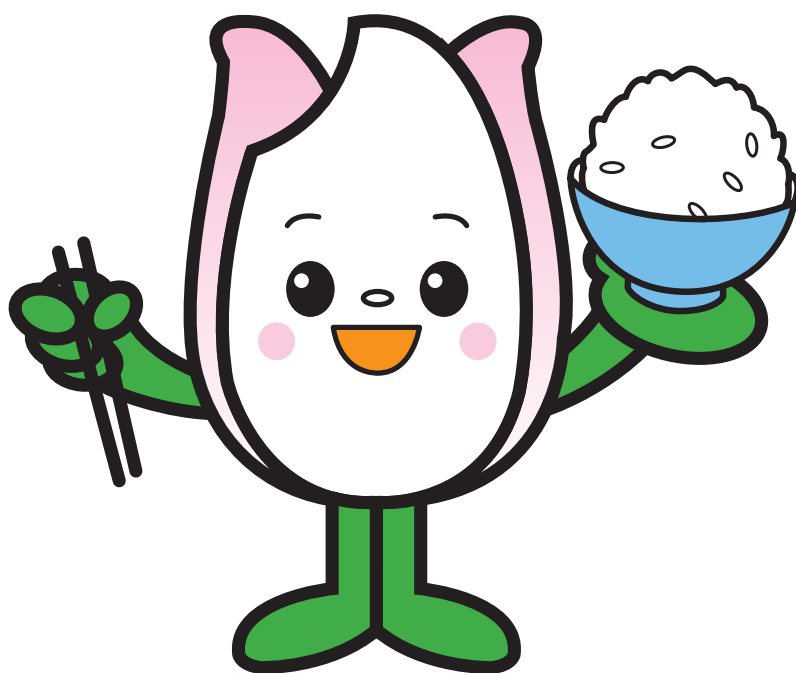


見て・聞いて・触れて発見 食べて感動
にいがたの「食」が育てる心と体

新潟市食育推進計画

計画期間 平成19年度～平成23年度



食育推進キャラクター

「食育」
とは？

様々な経験を通じて食に関する知識及び食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

平成19年8月



新しい「目」で、
新しい「心」で、
新しい「新潟市」

新潟市

1

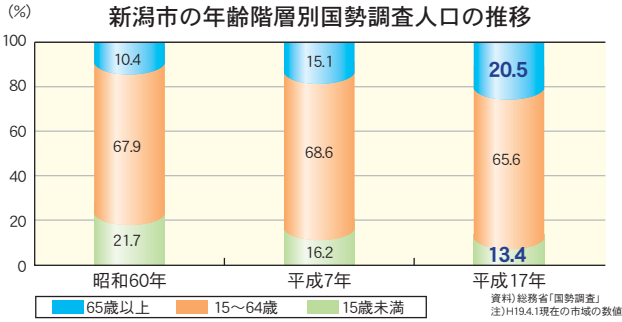
現状

なぜ今「食育」？

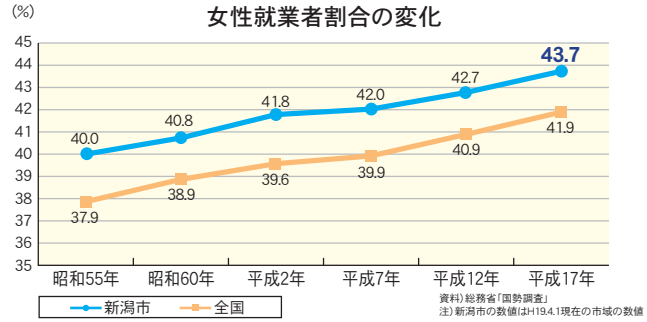
社会経済情勢の変化、ライフスタイルの多様化などにより、健全な食生活が失われつつあります。

社会経済情勢

● 少子高齢化が進んでいます。

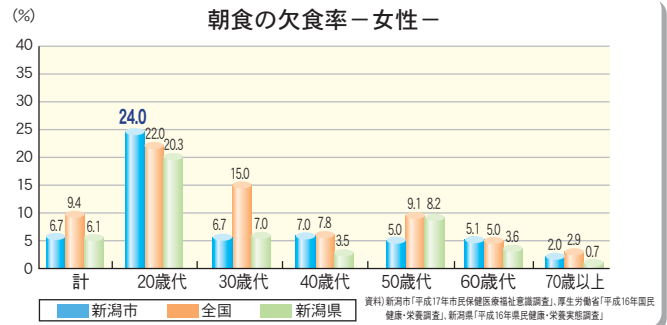
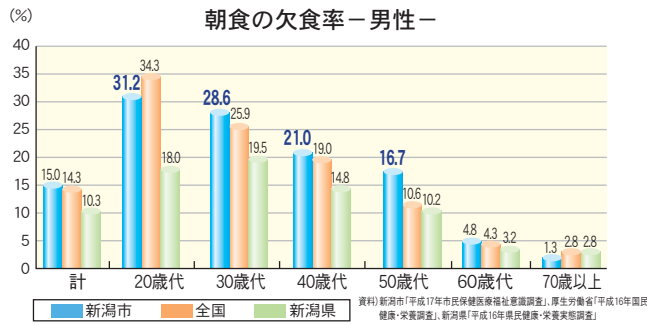


● 女性就業者が増えています。

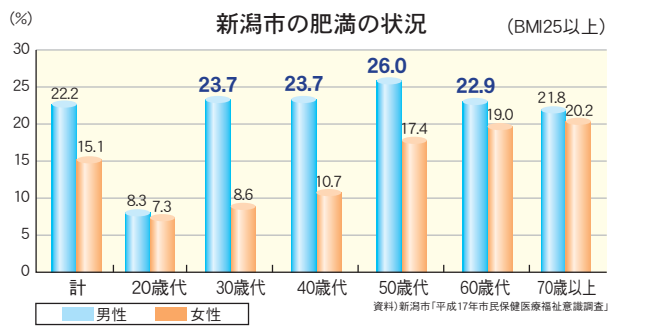


食生活と健康

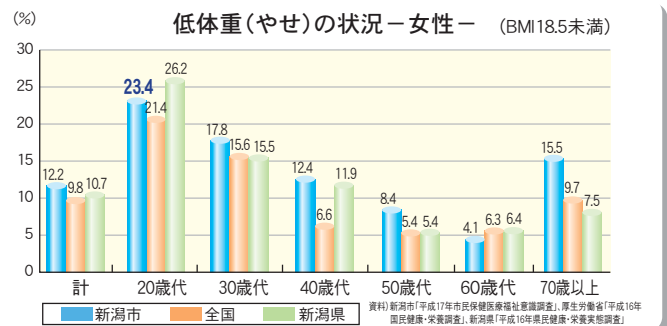
● 朝食を欠食する人は、男女とも20歳代で多く見られます。また、30～50歳代の男性の欠食率が全国に比べて高い状況です。



● 30～60歳代の男性の4人に1人に肥満が見られます。

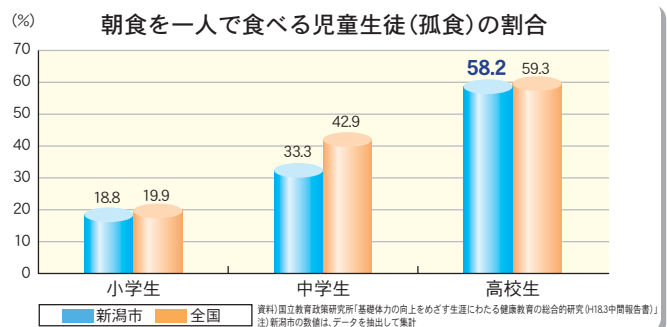
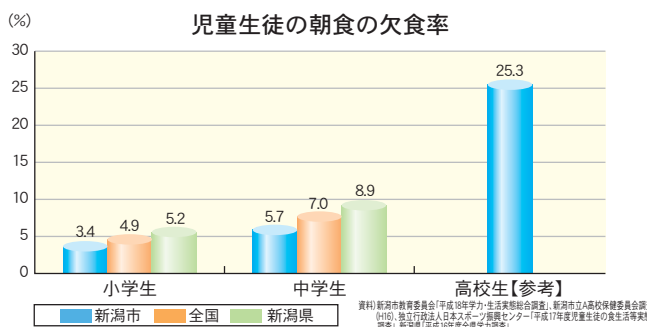


● 20歳代の女性の4人に1人が低体重(やせ)の状況です。



子どもの食生活

● 朝食の欠食や孤食は学年が進むにつれ、増える傾向にあります。



3 施策展開

にいがた

食育を推進していくにあたっては、本市の特色ある基

視点

現状を踏まえ、下記の3つの視点から施策を展開します。

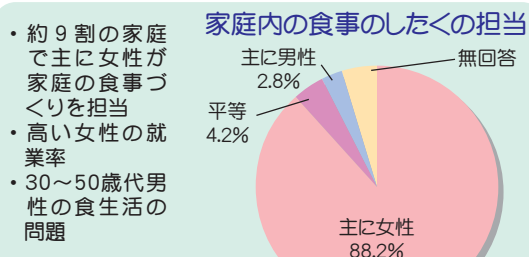
視点1 地域の力

地域コミュニティ協議会、高齢者、食生活改善推進委員など、地域における組織や人の力を生かし、地域ぐるみで家庭を支えあう視点から取り組みます。

- ・自治会加入率97.7%
- ・市内97の地域コミュニティ協議会
- ・優れた技術と豊富な経験を有する農林漁業者
- ・伝統的な食文化に関する豊富な知識を有する高齢者、食生活改善推進委員

視点2 男女共同参画

食事のしたくや子育てなど、家庭における男女共同参画を進める視点から取り組みます。

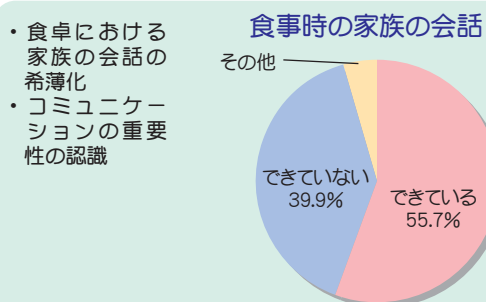


- ・約9割の家庭で主に女性が家庭の食事づくりを担当
- ・高い女性の就業率
- ・30～50歳代男性の食生活の問題

資料)新潟市「平成18年男女共同参画に関する基礎調査」

視点3 コミュニケーション

食事を通じた家族間のコミュニケーション、食育推進を通じた関係者間のコミュニケーションを重視する視点から取り組みます。



- ・食卓における家族の会話の希薄化
- ・コミュニケーションの重要性の認識

資料)新潟市「平成18年度食育・健康づくりに関する市民アンケート調査」

市民運動としての食育の推進

教育関係者、保健医療関係者、農林漁業者、食品関連事業者を囲いながら、連携・協働し、市民一人ひとりが自らの問題と取り組みます。

- ① 「にいがた流 食生活」の提唱・普及
- ② 継続的な食育推進運動
- ③ 食育推進の拠点の整備
- ④ 各種団体等との連携・協働体制の確立
- ⑤ 地域の力を生かした食育の推進
- ⑥ 食育に関する市民の理解の増進
- ⑦ あらゆる広報媒体を活用した食育の普及啓発、情報発信

家庭における食育の推進

市民一人ひとりが、基本的な生活習慣を学ぶ場である家庭に、食生活を大切にし、健全な食習慣の確立がなされるよう、男踏まえ、保護者や子どもの食に対する関心と理解が深まるよう

- ① 男女共同参画を踏まえた食育推進
- ② 望ましい食習慣や知識の習得
- ③ 妊産婦や乳幼児等に関する栄養指導

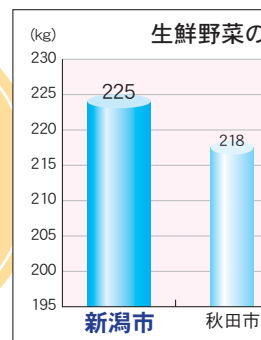
学校、保育所等における食育の推進

家庭や地域と連携しつつ、学校、保育所などにおいて、子どもながら食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な身の健全な成長が図られるよう取り組みます。

- ① 保育所、幼稚園における食育推進
- ② 小・中学校における指導体制の充実
- ③ 小・中学校における子どもへの指導内容の充実
- ④ 学校給食の充実
- ⑤ 高校、大学等における食育推進

新潟市民は野菜好き?!

家計から見える市民の食生活の特徴
生鮮野菜の購入量は全国の都市の中で第1位です。



一流食生活の推進 ～新潟

基盤をいかした“新潟らしい市民運動”として、「にいがた流食生活」を提唱し、施策の柱

、食に関わる各種団体など関係者とコミュニケーション
して食育に関心をもち、市民運動として展開されるよう



▲食育の日の普及

情報の発信

において、自分や家族
男女共同参画の視点を
取り組みます。



▲男性の料理教室

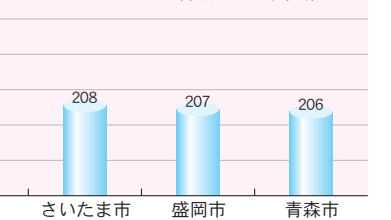
子どもたちが楽しみ
食生活の実現と心



▲学校教育田

の購入量～全国上位5都市～

一世帯当たり年間購入数量
(平成16～18年平均)



(資料)総務省「家計調査」
(注)47都道府県庁所在地及び北九州市、川崎市、東京都区部ランキング

地域の食材

日本型食

米を主食に、新鮮で安心安全
多様な副食を組み合わせた食

健康で楽しい食事

伝統的な食文化の
継承

生産
提供

市民一人ひとりの
健全な食生活

(栄養、食文化、食習慣、食

新潟市

豊かな自然(田園・海)

大生産地

農業産出額/全国市町村第2位

魚介

米

(1位)

花き

(3位)

畜産

野菜

(11位)

果実

(23位)

販売、加工など(付加価値)

学校給食

愛着心

食料品
製造業

にいがた流食生活の基

食が美味しい
イメージ

連携・交

体験

(料理・農

直 売・生

食品産業・

意識改

相互理

信頼関

感謝の念・理解・顔

鳥らしい市民運動の展開～

と位置づけて施策を展開します。

を使った生活の実践

な野菜,果実,魚など
栄養バランスのよい食事

食文化の承

環境と調和のとれた食生活

小とりの活の実現
(食の安全、マナー等)

消費実践

地域

交流

(作業) 学校給食
意見交換

革
解

関係
の見える関係

基盤となりうる要素

いまの
ジ

都市

大消費地

人口81万政令市

市民
来訪者

農水産品の加工技術・料理

人材育成

安心感

直売所
朝市

伝統的な食文化

地域及び職場における食生活改善の

地域や職場において、栄養、食習慣に関する食生活の改善を生活習慣病を予防するための活動を推進します。

- ① 「食生活指針」や「食事バランスガイド」の活用促進
- ② 専門的知識を有する人材の養成・活用の促進
- ③ 市民の健康づくりのための食育推進
- ④ 食品関連事業者等による食育推進
- ⑤ 職場における食育推進

豊かな食環境と食文化を生かし受け継ぐ

都市と田園が共存する本市の特性を生かして、生産者と消費者や環境と調和のとれた食料の生産と消費が行われるよう取り組み。本市の風土、伝統的な行事、作法などと結びついた伝統あふれる食文化とともに、新たな食文化の創造のための活動を支援します。

- ① 田園と都市の交流促進(農林漁業者等による食育)
- ② 地産地消の促進
- ③ 食文化の継承のための支援
- ④ バイオマス利用と食品リサイクルの推進

食品の安全性その他食の選択に資する

市民が適切な食生活の選択ができるよう、食品の安全性、栄養情報の収集や調査研究、あらゆる広報媒体の有効活用など情報の発信に努めます。

- ① 食品の安全性に関する知識と理解の増進
- ② 栄養、食習慣等食育推進のための情報収集、調査研究

特色ある基盤

- 大消費地(人口81万政令市)と大生産地(米の生産日本一)が近接するまち
- 人(人材育成の場)と環境(多くの朝市、直売所)に恵まれ、伝統的な食文化を引き継いできたまち
- 食が美味しいと評判のまち

◆新潟市(計画の進)

◆関係者(食品関連)の連携(場所を)

のための取組の推進

推進し、

進



▲スーパーマーケットでの栄養相談

継ぐ食育の推進

者の交流を促進することにより、地域の活性
組みます。

る優れた食文化を発掘し、これを継承すると

推進)



▲レシピ集等の作成

する情報提供等

養、食習慣など
による効果的な



▲ホームページによる情報提供

研究

計画の着実な推進

食育推進会議を中心とした推進体制

行管理、ネットワークの拡大、情報の整理、共有化)

(市民、教育関係者、保健医療関係者、農林漁業者、
事業者、市等) があらゆる機会やあらゆる
利用して、連携を図りながら推進

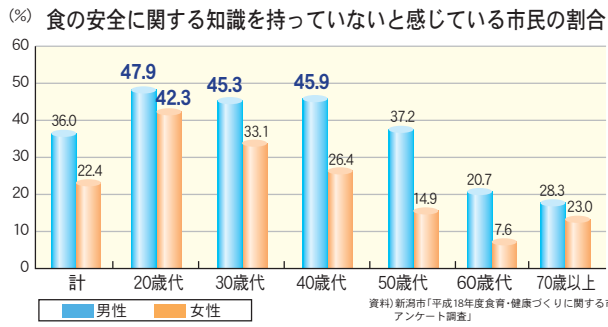
計画の指標

目標	指標	集計方法・対象等	現状値 (H18)	目標値 (H23)	
市民一人ひとりの健全な食生活の実践	★ 食育に関心がある市民の割合	「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」	72.1%	90%	
	★ 食事バランスガイド等を参考にしている市民の割合	「ほとんどしない」を除く ※現状値：食事バランスガイドのみ	※16.1%	60%	
	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	1日2回以上	59.5% (H17)	70%	
	★ 朝食を欠食する市民の割合(成人)	20歳代男性	「ほとんど食べない」「週に1~2回食べる」	31.2% (H17)	15%
		30歳代男性		28.6% (H17)	15%
	★ 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を認知している市民の割合	「言葉も意味も知っている」	65.0%	80%	
	肥満の市民の割合	20~60歳代男性 BMI25以上	22.3% (H17)	15%	
	低体重(やせ)の市民の割合	20歳代女性 BMI18.5未満	23.4% (H17)	15%	
	食の安全に関する知識を持っていると思う市民の割合	「持っている」「ある程度持っている」	69.7%	80%	
	★ 食育の推進に関わるボランティアの数	食生活改善推進委員数	610人	730人	
食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数	健康づくり支援店 指定店舗数	180店	500店		
健やかな子どもの成長	食事時に家族の会話ができる市民の割合	「大切だと思っているしできている」「大切だと思っているしだいたいできている」	55.7%	70%	
	★ 朝食を欠食する子どもの割合	小・中学生 学校へ行く前に朝食をとるか「とらないことが多い」「全く、ほとんどとらない」	4.2%	0%	
	★ 学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)	市内産	10.5%	13%	
	学校教育田等で農業体験を実施している学校の数	小学校 ※現状値：教育田のみ	※35校	95校	
地域の活性化、環境と調和のとれた食料の生産・消費	市民ランド・収穫農園の参加者の数	家族や友人同士など参加グループ数	425組	500組	
	学校給食廃食用油の燃料化	※新潟菜の花プラン推進の指標 (廃油回収量÷BDF精製量)	15,000ℓ	70,000ℓ	
	環境保全型農業に積極的に取り組む「エコファーマー」の認定者数		1,224人	1,720人	
	★ 食育の推進に関わるボランティアの数(再掲)	食生活改善推進委員数	610人	730人	
	食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数(再掲)	健康づくり支援店 指定店舗数	180店	500店	
	★ 学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)(再掲)	市内産	10.5%	13%	
学校教育田等で農業体験を実施している学校の数(再掲)	小学校 ※現状値：教育田のみ	※35校	95校		

★食育推進基本計画(国)・新潟県食育推進計画と共通の指標

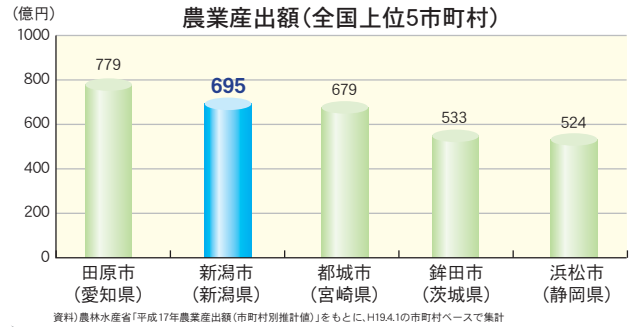
食の安全

- 食の安全に関する知識を持っていないと感じている人が多くみられます。



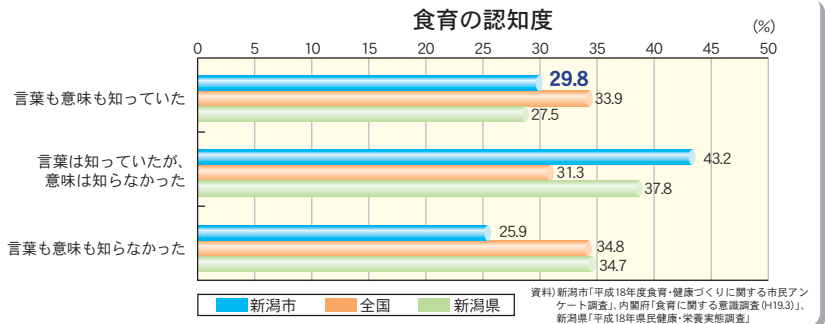
農業

- 平成17年の農業産出額は、全国市町村で第2位です。



食育への関心

- 食育という言葉を知っている人・関心がある人はそれぞれ7割ですが、意味まで知っている人は3割です。



2 目標

これらの現状を踏まえ、関係者が一体となって課題の解決に取り組むため、**3つの目標**を定めました

食育推進条例の基本理念を踏まえ、5年間の目標を設定し、その達成が図られるよう取組を推進します。

基本理念

- ①心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の形成、感謝の念の醸成等
- ②自発的な意思の尊重、家庭が重要であるという認識のもとでの関係者の有機的な連携
- ③特に子どもたちに対する積極的な取組
- ④生産者と消費者との交流による地域の活性化や環境と調和のとれた食料の生産・消費

目標 1 市民一人ひとりの健全な食生活の実践

- ・食育に関心をもとう
- ・食事バランスガイドを使おう
- ・朝ごはんを食べよう
- ・メタボリックシンドロームを知ろう
- ・適正体重を目指そう
- ・食の安全についてもっと知ろう
- ・食育推進活動に参加しよう
- ・お店から市民の食生活を支えよう

目標 2 健やかな子どもの成長

- ・食事のときに家族の会話を楽しもう
- ・朝ごはんを食べよう
- ・学校給食で地場産物を使おう
- ・学校で農業体験に取り組もう

目標 3 地域の活性化、環境と調和のとれた食料の生産・消費

- ・市民ランドを利用しよう
- ・学校給食で使った油を活用しよう
- ・環境にやさしい農業を実践しよう
- ・地域の食育推進のために取り組もう
- ・お店から市民の食生活を支えよう
- ・学校給食で地場産物を使おう
- ・学校で農業体験に取り組もう

(食育推進の目的)

市民一人ひとりが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むこと

いきいき暮らせる活力ある住みよいまち “新潟” の実現

「にいがた流 食生活」をはじめよう!

「にいがた流 食生活」とは、市民の皆さん一人ひとりが次のことを実践する健全な食生活をいいます。

① 「日本型食生活」の実践

主食のごはん(米)に、地域でとれた新鮮で多様な食材(野菜、果実、魚など)を副食に組み合わせて、美味しく栄養バランスの良い食事をしよう。

② 健康で楽しい食事

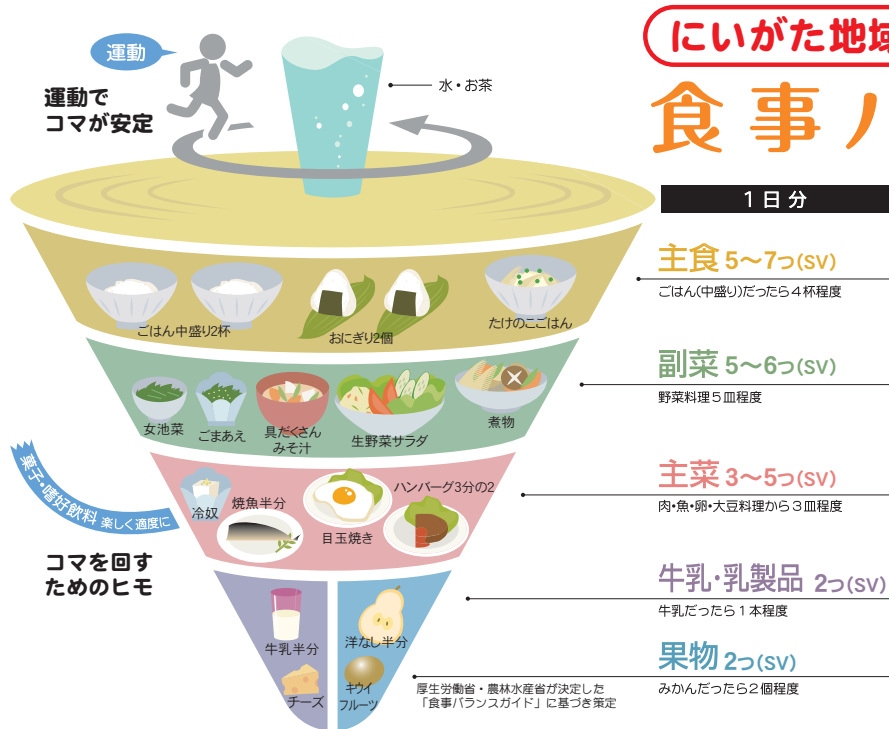
朝ごはんを食べる、家族そろって食卓を囲むなど健康的で楽しい食事をしよう。

③ 伝統的な食文化の継承

郷土料理や家庭料理など地域や家庭で受け継がれてきた食文化を継承しよう。

④ 環境と調和のとれた食生活

食べ残し、無駄な廃棄をしないなど環境と調和のとれた食生活をしよう。



にいがた地域版

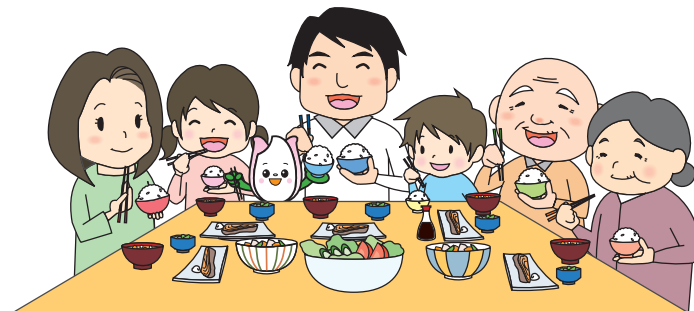
食事バランスガイド

食事バランスガイドってなあに?

食事バランスガイドは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくイラストで示したものです。



食育メニュー



お問い合わせ先

新潟市食育・健康づくり推進本部 食育・健康づくり推進課

〒956-8601 新潟市秋葉区程島2009番地 電話 0250-25-5590 (直通)

E-mail: shokuiku@city.niigata.lg.jp ホームページ: <http://www.city.niigata.jp/info/shokuiku/>

表紙のキャッチコピーは、公募により「新潟市食育推進キャッチコピー」として決定したものです。

R70

古紙配合率70%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK™